

静岡県漁業協同組合連合会
1093 静岡市追手町 9-18
16.5.21 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 春の勲章・褒章受章者の伝達式が挙行される

政府は、去る5月10日農林水産省講堂で水産関係者の平成16年春の勲章・褒章受章者の伝達式を執り行いました。伝達式では亀井農林水産大臣が受章者一人ひとりに勲章を手渡し、祝辞を述べられました。引き続き、受章者は皇居で天皇陛下に拝謁しました。

本県漁協関係では本会並びに県信漁連が推薦した前福田町漁業協同組合長・伊藤三喜男氏が、シラス船曳網漁業の発展と組合の経営基盤強化に努めるとともに、漁協系統組織の育成強化等を図り、本県水産業の振興発展に大きく貢献した功績が認められ、旭日双光章の栄誉に輝きました。また、本県水産関係では、県水産加工業協同組合連合会代表理事長村松善八氏が旭日双光章、元県桜海老加工連会長池上利氏が黄綬褒章を受章しました。

ここに受賞を衷心よりお喜び申し上げますとともに、今後の一層のご活躍をご期待申し上げます。

2. 平成15年漁業・養殖生産量604万トン

農林水産省統計情報部ではこのほど、平成15年の漁業・養殖生産統計(概数)を発表しました。

それによると15年の漁業・養殖業の総生産量は603万8千トンを、前年に比べ15万8千トン(2.7%)増加となり、1988年以来15年ぶりに増加に転じました。

海面養殖業を除く海面漁業の漁獲量は468万3千トンを24万9千トン(5.6%)増加し、海面養殖業は124万5千トンを8万8千トン(6.6%)減少しました。内水面漁業の漁獲量は6万トンを1千トン(2.4%)減少し、内水面養殖業はウナギ、マス類、コイ、アユの主要魚種の生産量が5万トンを1千トン(2.5%)減少しました。

遠洋漁業の漁獲量は、大中型遠洋カツオマグロが減少しましたが、沖合・沿岸漁業では、大中型巻網、大型定置網などによりカタクチイワシ、サバ類、サンマが増加しました。

3. 黒潮大蛇行の恐れ 東海沖に注意を呼び掛け

気象庁では、九州東岸から伊豆半島にかけての海域で水温や塩分、風力を分析した結果、通常より南に大きく蛇行する「黒潮大蛇行」が起こる可能性が高いと発表しました。

昨年末に九州の東海上を通る黒潮が沿岸から通常の約2倍の約100km離れた沖合を流れる「小蛇行」が続いて、徐々に東方に移動しており5月上旬の時点で、室戸岬沖に達し、同庁が予測したところ小蛇行は6月下旬に紀伊半島南東に移動した後、東海沖で大蛇行になる可能性があります。

黒潮は例年東海沖数十kmから百km近くを流れているといわれていますが、大蛇行の時には東海地方の沖で黒潮の流路の最も南の部分が1年以上にわたって北緯32度以南を通る状態になります。大蛇行が発生すれば13年ぶりで約2、3年続く可能性があり、黒

潮と本州南岸の間に「冷水塊」が発生し水温が1から2度低下します。これによりマグロやカツオが沿岸から離れ、より暖かい黒潮の南側に移動する可能性があるほか、船舶も潮流の変化によって航行経路を変更するなどの対応が必要となり、同庁では警戒を呼び掛けています。

4. 日本沿岸の海面水位最高レベル

ここ数年、日本沿岸で海面水位が上昇している現象は、日本近海の水温上昇と密接な関係があり、最近5年間の日本の平均海面水位は通常の水位と比べて4、5cm前後高く、過去100年で最も高いレベルになっていることが気象庁の調べで分かりました。

気象庁によると、日本近海の水深0～約700mの平均水温は、1970年から85年まではほとんどの海域で低下していましたが、北太平洋中部海域での海上風の長期変化や地球温暖化などの影響で、85年以降は上昇傾向が続いています。

この原因は、水温が上がると海水は膨張して水位が増し、逆に水温が下がれば収縮して水位が低下するものです。全国の検潮所や海洋気象観測船を使った調査でも、水温変化と海面水位の上昇傾向がほぼ一致しました。

5. 第14回漁港漁場漁村写真コンクール作品募集

全国漁港漁場協会では、第56回全国漁港漁場大会(開催日：平成16年9月14日(火) 開催場所：静岡グランシップ(静岡市))の開催を記念して、美しい漁港・漁場・漁村づくりをテーマに、写真を通じてわが国漁業と漁港漁場整備の現状、漁村環境の実態および漁業者の生活の状況などを訴え、広く漁港・漁場・漁村の理解を求めため、第14回漁港漁場漁村写真コンクール作品を募集します。

応募要領はつぎのとおりです。 応募作品： 応募作品はコンクールの趣旨に沿った未発表のものに限り、漁港・漁場・漁村に関連したもの。(例：働く漁民、漁港の夜明け・夕暮れ、祭り、イベント、漁港漁場漁村の風景など) 作品には、漁港名、題名、内容説明、撮影年月日、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記した応募票(形式は特に定めていない)を写真の裏に添付して送付する。また、デジタルカメラ・デジタル処理写真等は対象になりません。 締め切り：7月20日 発表：9月14日静岡グランシップで開催される「第56回全国漁港漁場大会」会場で入賞作品を発表し展示します。

賞：特選1席(農林水産大臣賞)副賞5万円 特選2席(水産庁長官賞)副賞5万円 特選3席(全国漁港漁場協会会長賞)副賞5万円 入選10点副賞2万円 佳作15点副賞5千円

応募および問い合わせ先：全国漁港漁場協会第14回全国漁港漁場漁村写真コンクール係 = 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-21-1 03-3214-2924

HPアドレス <http://www.gyokou.or.jp/>

6. 諸会議・日程 (5月25日(火)～6月7日(月))

- 既報分省略 -

5月26日(水) 県漁青連 = 役員会 (県水産会館)

5月28日(金) 県近海かつお・まぐろ漁業者協議会 = 通常総会 (御前崎漁協)

5月31日(月)・6月1日(火) 県漁連・県信漁連 = 地区別組合長会議

(5/31:県水産会館)(6/1:下田市漁協)

6月 4日(金) 県漁連 = 理事会 (県水産会館)